

# ヤマハ電子型アップライトピアノ DUP-7

## 取扱説明書

### 目次

安全上のご注意 .....	2
本製品の特長・付属品 .....	4
各部の名称 .....	5
本体・ペダル .....	5
スイッチボックス・端子部 .....	6
ご使用前に .....	7
鍵盤蓋について .....	7
譜面板について .....	7
電源コードの接続と音量の設定 .....	7
ヘッドフォンを使う .....	7
リバーブ(残響)を加える .....	8
ピッチを合わせる .....	9
同時発音数の切り替え .....	10
他の機器との接続 .....	11
試聴曲の再生 .....	12
資料編 .....	13
おかしいなと思ったら .....	13
MIDIインプリメンテーションチャート .....	14
主な仕様 .....	15
お手入れ .....	15
音のエチケッ ト .....	15
お引越しのときには .....	15
保証とアフターサービス .....	裏表紙

# 安全上のご注意 (必ずお守りください)



ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

## 記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	<b>注意</b> 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

△ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



**本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。**

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。



**浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。**

感電や火災、または故障の原因になります。



**電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。**

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



**電源は必ず交流100Vを使用する。**

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。



**手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**

感電の恐れがあります。



**電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。**

感電やショートの原因があります。



**本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。**

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

## 注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



**電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。**

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



**本機を壁につけて設置するときは、本機背面の電源プラグに無理な力がかからないように、壁との間に少しすき間をあけてください。**

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- ❗ **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。**  
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ⊘ **タコ足配線をしなない。**  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。
- ❗ **長期間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。**  
感電、ショート、発火などの原因になります。
- ❗ **他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。**  
感電または機器の損傷の恐れがあります。
- ⊘ **直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。**  
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ **テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。**  
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ⊘ **不安定な場所に置かない。**  
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
- ❗ **本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。**  
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。
- ❗ **本機を移動するときは、引きずらない。**  
床を傷つける恐れがあります。
- ❗ **本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。**  
ケガをする恐れがあります。
- ❗ **本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。**  
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。

- ❗ **地震のときは、本機から離れる。**  
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。
- ⊘ **外装をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本機の上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。**  
外装や鍵盤が変色・変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ **本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやつまみ、入出力端子などに無理な力を加えない。**  
本機が破損したり、お客様がするケガをしたりする原因になります。
- ⊘ **大きな音量で長時間使用しない。**  
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。  
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

## イスについて

- ⊘ **イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。**  
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわしたりして、お客様がケガをする原因になります。
- ⊘ **イスには二人以上ですわらない。**  
イスが転倒したりこわしたりして、お客様がケガをする原因になります。
- ⊘ **イスにすわったままイスの高さを調節しない。**  
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がケガをしたりする原因になります。
- ❗ **イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。**  
ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

# ごあいさつ・本製品の特長・付属品

このたびは、ヤマハ電子型アップライトピアノをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を正しくお使いいただくため、お使いの前に本書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

## 本製品の特長

### ■アップライトピアノアクションによる本物のタッチ感

鍵盤を弾くとアクションが働きハンマーが動くアコースティックピアノと同様の機構により、アップライトピアノに極めて近いタッチ感を実現しました。

\* アコースティックピアノと同等のアクションを採用しておりますので、環境の変化やご使用状況によっては調整等のメンテナンスが必要となります。

### ■非接触式連続検出キーセンサーが

#### 鍵盤の微妙な動きを検出

鍵盤の微妙な動きを、光ファイバー方式のキーセンサーが忠実に検出。タッチの微妙なニュアンスを、きめ細かくキャッチします。

### ■グランドピアノ並みの3本ペダル仕様

ソフトペダル、ソステヌートペダル、ダンパーペダルの3本ペダルを採用。ペダル表現も思いのままに行なえます。

### ■リアルなピアノ音色

ピアノ音源には、色彩感あふれる生の音を、忠実にステレオサンプリングし、大容量メモリに記録。ピアノ独特の鋭い立ち上がりと美しい余韻から、打鍵の強弱による音色の変化、ダンパーの共鳴効果にいたるまで、表情豊かなピアノ音色をお楽しみください。

### ■音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音量を自由に調節できます\*。また、ヘッドフォン(別売)を使用すれば、周囲に気兼ねなく演奏できます。ヘッドフォンは2本接続できるため、ヘッドフォン使用時にもレッスンや連弾ができます。

\* 音量ツマミを最小にしても、鍵盤をたたく音は消せません。

### ■軽量・コンパクト設計

重量97kg、高さ102cm、奥行50cmの軽量・コンパクト設計です。

## 付属品をお確かめください

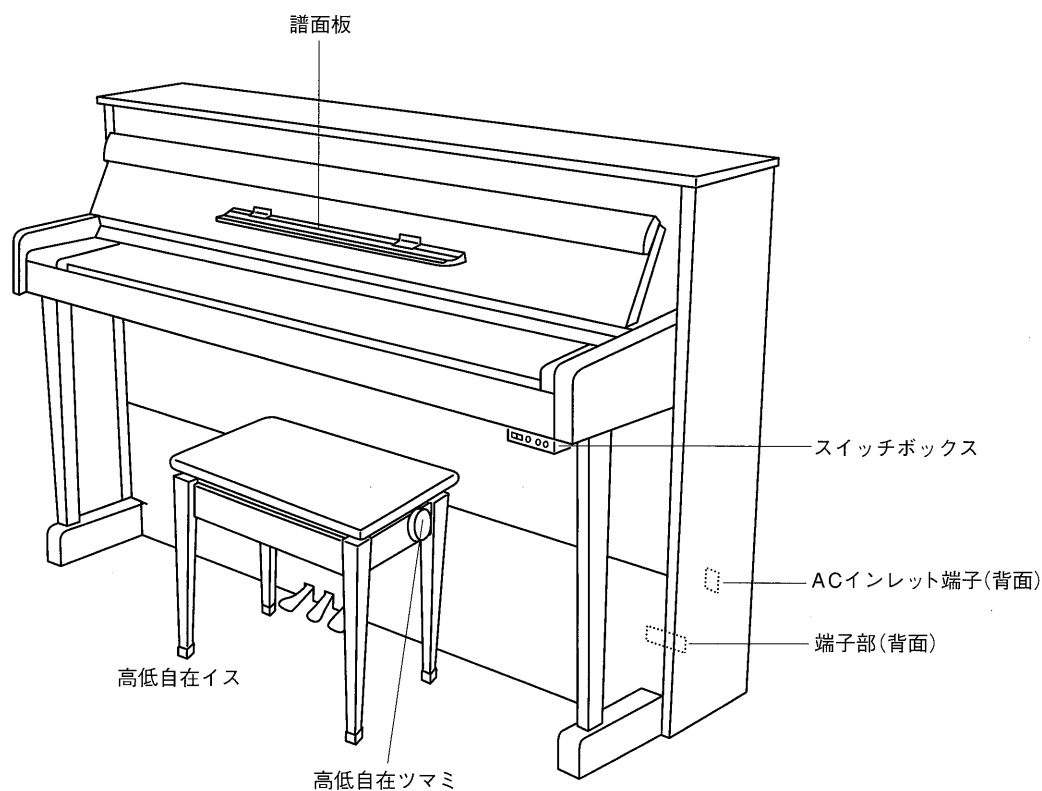
納入時の付属品は次のとおりです。ご使用になる前にお確かめください。

- 高低自在イス
- AC電源コード
- 取扱説明書
- 保証書

### ご注意

- ・納入の際には、必ず保証書の「販売店名、お買い上げ日(納入日)」などの記入を確かめて、販売店よりお受け取りください。
- ・AC電源コードは、納入時に接続させていただいております。

# 各部の名称 (ピアノ本体、ペダル)



## ペダルのはたらき

### ソフトペダル

このペダルを踏むと、ソフトな音になります。踏み込む深さにより効果を変化させることができます。

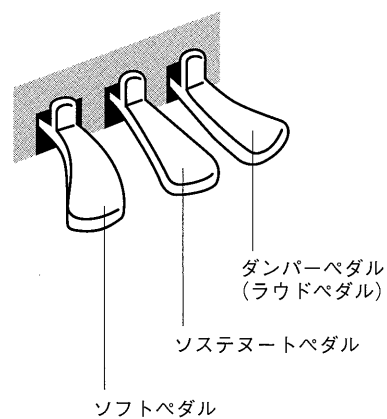
### ソステヌートペダル

このペダルを踏むと、そのとき押していたキーのみ、音を長く響かせることができます。

### ダンパーペダル (ラウドペダル)

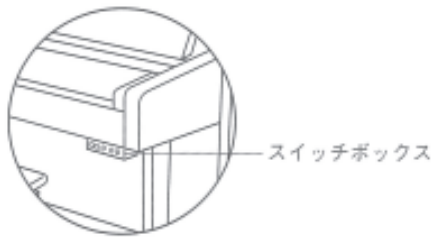
このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても、音を長く響かせることができます。

アコースティックピアノで得られる弦の共鳴効果(サンプリング)が加わります。

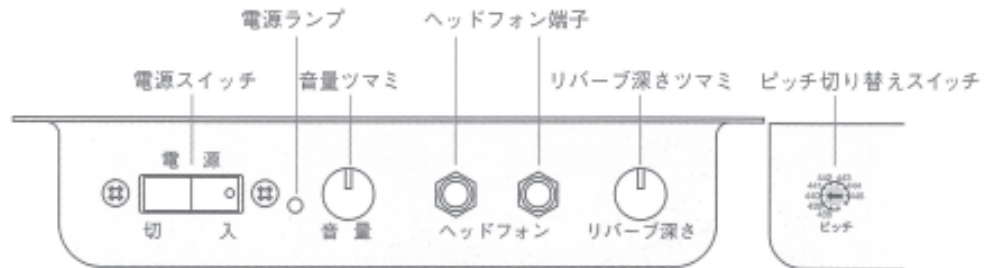


# 各部の名称(スイッチボックス、端子部)

## スイッチボックス

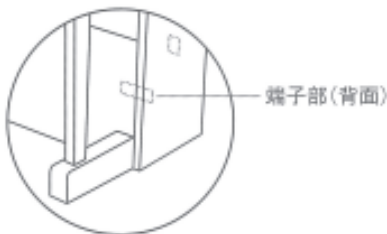


スイッチボックス

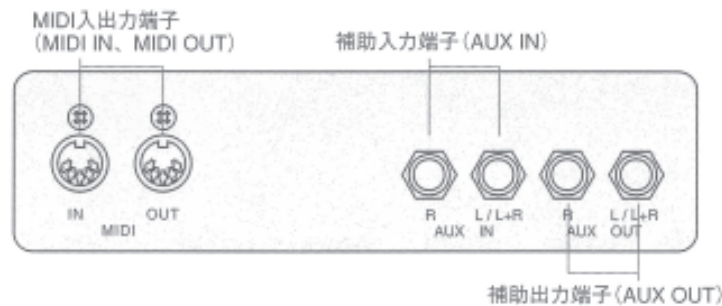


電源スイッチ	本製品の電源スイッチです。	7 ページ参照
電源ランプ	電源スイッチを入れると点灯します。	7 ページ参照
音量ツマミ	ピアノ電子音の音量を調節するツマミです。	7 ページ参照
ヘッドホン端子	ヘッドホン(別売)を2本まで接続できます。	7 ページ参照
リバーブ深さツマミ	ピアノ電子音に対する残響効果のかかり具合を調節します。	8 ページ参照
ピッチ切り替えスイッチ	ピアノ電子音のピッチ(音程)を切り替えるスイッチです。設定は438~445ヘルツの範囲で1ヘルツきざみで行なえます。	9 ページ参照

## 端子部



端子部(背面)



MIDI入出力端子 (MIDI IN、MIDI OUT)	外部のMIDI機器との接続に使用します。	11ページ参照
補助入力端子 (AUX IN)	外部オーディオ機器や電子楽器などの出力を本製品で鳴らすための入力端子です。	11ページ参照
補助出力端子 (AUX OUT)	本製品の演奏を外部PA機器で聴いたり、外部録音機器で録音するための出力端子です。	11ページ参照

## 鍵盤蓋について

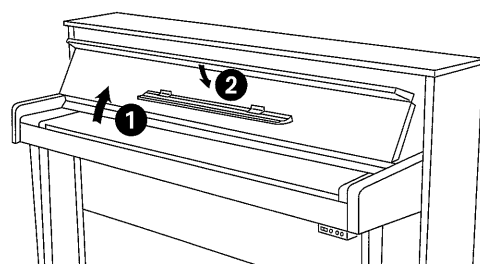
### 開けるとき

- ① 両手を添えて、ゆっくりと起こします。
- ② 鍵盤蓋の前面板を、下向きに倒します。

### 閉めるとき

- ① 倒しておいた鍵盤蓋の前面板を、止まるまで上向きに戻します。
- ② 両手を添えて、ゆっくりと閉めます。

鍵盤蓋を開ける



**ご参考** ● 鍵盤蓋を開いたら、前面板は下向きに倒してご使用ください。上向きのまま使用すると、音がこもることがあります。

**ご注意** ● 閉めるときは、無理に力を加えないでください。  
● 本製品を使用しないときは、鍵盤蓋を閉めてください。鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行き、また自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにしてください。鍵盤蓋と口棒の間に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。

## 譜面板について

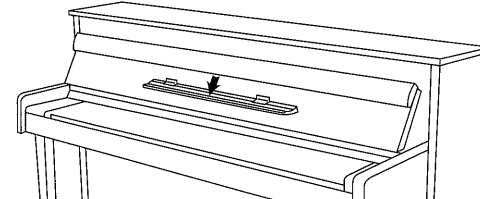
### 立てるとき

- 譜面板を、止まるまで下向きに開きます。

### 倒すとき

- 開いておいた譜面板を、止まるまで上向きに戻します。

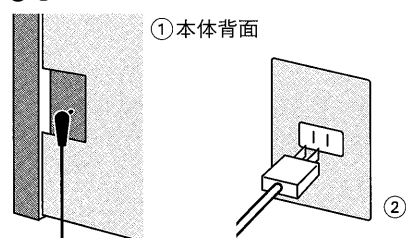
譜面板を立てる



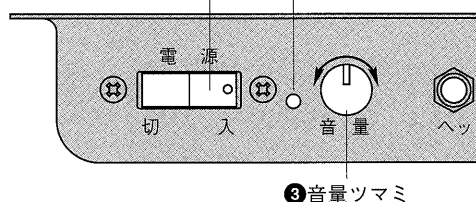
## 電源コードの接続と音量の設定

- 操作**
- ① 電源コードを接続します。
    - ① 本製品背面にあるACインレット端子に、電源プラグが接続されていることを確認します。
    - ② 家庭用 (AC100V) コンセントに、電源プラグを差し込みます。
  - ② 電源スイッチを押して、電源を入れます (電源ランプが点灯します)。
  - ③ 音量ツマミを中央付近まで回した後、実際に鍵盤を弾いて音量をお決めください。

① 電源コードの接続



② 電源スイッチ  
電源ランプ



③ 音量ツマミ

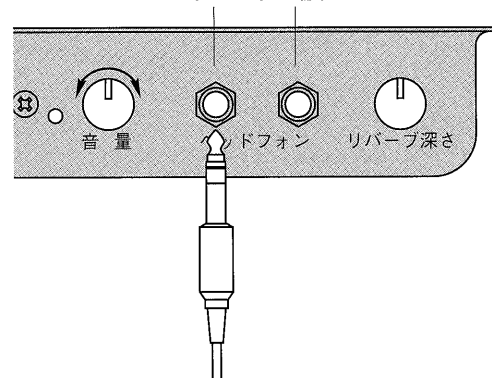
## ヘッドフォン(別売)を使う

- ヘッドフォンを接続すると、本製品のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。
- ヘッドフォンは2つまで接続できますので、演奏をもう一人の方が確認したり、連弾することも可能です。

- 操作**
- ① ヘッドフォンを、ヘッドフォン端子に接続します。
  - ② 音量ツマミを中央付近まで回した後、実際に鍵盤を弾いて音量をお決めください。

- ご注意**
- ヘッドフォンを2つ接続する場合は、同じ仕様のものご用意ください (推奨品: HPE-170)。違う仕様のものでと、音量、音質が異なって聞こえる場合があります。
  - ヘッドフォンを接続しても、音量を絞っても、鍵盤を叩く音は消せません。

ヘッドフォン端子



# リバーブ(残響)を加える

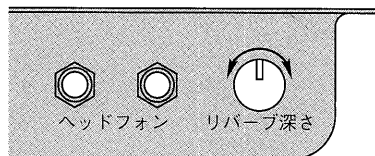
## リバーブとは

- 本製品はデジタルリバーブを内蔵しており、ナチュラルな残響音によって、サウンドにうおいや広がりを与えることができます。
- 3種類のタイプ(ルーム/ホール1/ホール2)が用意されています。

リバーブの深さ調節  
…ツマミを右へ回すと残響が多くなる  
…ツマミを左へ回すと残響が少なくなる

### 操作 リバーブの深さを調節する

- リバーブ深さツマミを回すことにより、リバーブの深さ(かかり具合)を調節します。



- リバーブ深さツマミを絞りに切っていると(左一杯に回した状態)、リバーブはかかりません。

### 操作 リバーブのタイプを切り替える

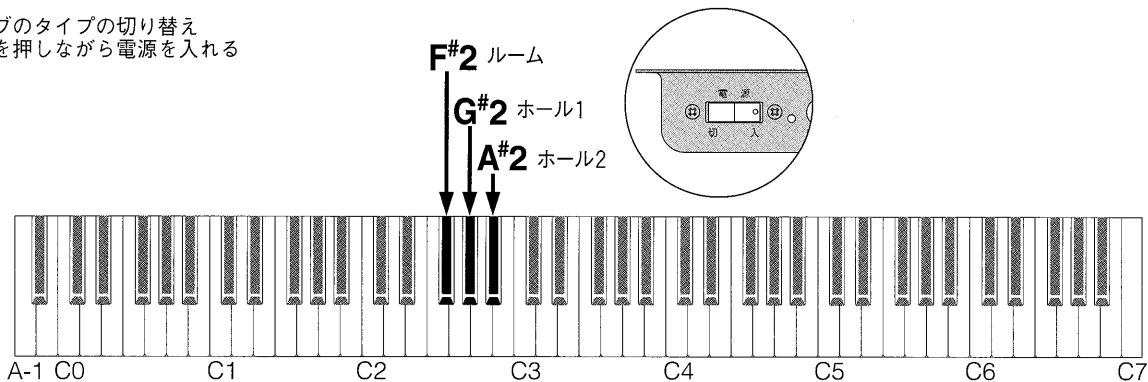
- 通常は「ホール1」が選ばれています。
- 電源が入っている場合は、いったん電源を切ります。
- 下図のように黒鍵を押しながら電源を入れると、リバーブのタイプを切り替えることができます。
  - ルーム … F#<sub>2</sub>を押しながら電源を入れる
  - ホール1 … G#<sub>2</sub>を押しながら電源を入れる
  - ホール2 … A#<sub>2</sub>を押しながら電源を入れる

- リバーブのタイプは電源を切るとホール1に戻ります。

### ■リバーブのタイプ

タイプ名	内容
ルーム	響きやすい部屋の中で弾いた時のような残響効果
ホール1	小さなコンサートホールで弾いた時のような残響効果
ホール2	大きなコンサートホールで弾いた時のような残響効果

リバーブのタイプの切り替え  
…黒鍵を押しながら電源を入れる





# ピッチを合わせる

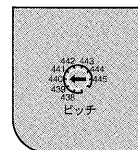
## ピッチ調整が必要な場合

- 標準的なピッチは440ヘルツ(A3)で、本製品も工場出荷時440ヘルツに設定されていますが、他の楽器や声楽とのアンサンブルで、これらにピッチを合わせる必要がある場合に、本製品のピッチを調整することができます。
- 本製品には、ピッチ切り替えスイッチを用いる方法と鍵盤を用いる方法が用意されており、2つの方法を組み合わせることもできます。

## ピッチ切り替えスイッチを用いる方法

- 本製品は、スイッチボックス側面のピッチ切り替えスイッチを回すことにより、1 Hz単位で設定できます(1ヘルツ=約4セント)。
- ピッチ切り替えスイッチで設定可能な範囲は、438ヘルツ~445ヘルツです。
- あらかじめピッチが数値で分かっている場合に便利な方法です。

ピッチ切り替えスイッチ  
(スイッチボックス右側面)



スイッチを回すには、お手持ちのマイナスドライバーをお使いください。

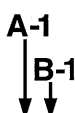
**ご参考** ●半音は100セントです。

## ピッチを微調整したい時

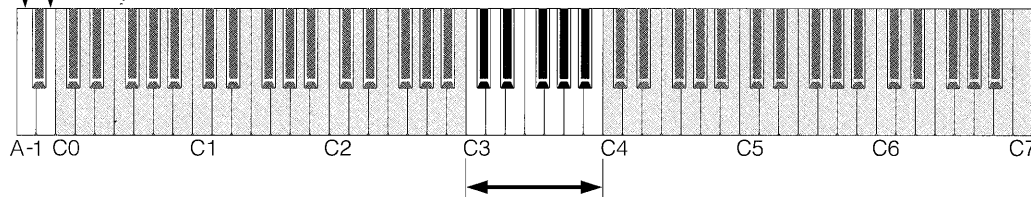
- 鍵盤を用い、耳で確かめながらピッチを合わせる方法です。ピッチ切り替えスイッチによる設定に対して、微調整を加えることになります。
- 約1.2セント単位で、±約50セントの範囲で設定できます。
- ピッチがずれていると、音にうねりが生じます。本製品と他の楽器の両方を鳴らしながら、うねりがなくなる高さに調整してください。

**ご注意** ●鍵盤で設定したピッチは電源を切ると無効になり、ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻ります。

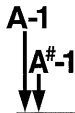
### ピッチを上げる



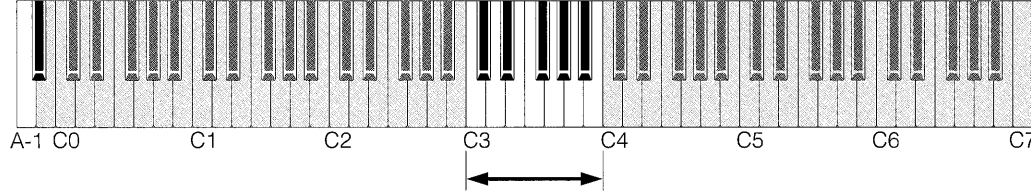
- ①A<sub>-1</sub>とB<sub>-1</sub>(最低音域の白鍵2つ)を押したままで
  - ②C<sub>3</sub>~B<sub>3</sub>のいずれかの鍵盤を押します。
- 1回押すごとに少しずつピッチが上がります。



### ピッチを下げる



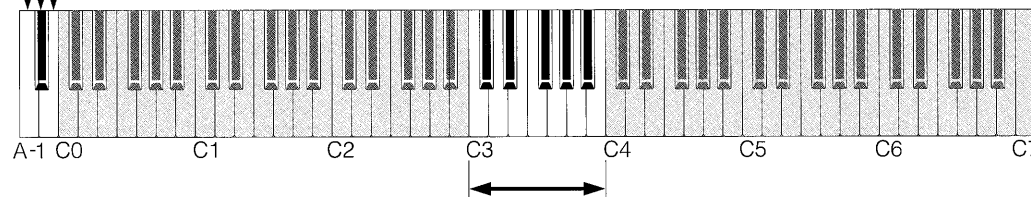
- ①A<sub>-1</sub>とA<sup>#</sup><sub>-1</sub>(最低音域の白鍵と黒鍵)を押したままで
  - ②C<sub>3</sub>~B<sub>3</sub>のいずれかの鍵盤を押します。
- 1回押すごとに少しずつピッチが下がります。



### ピッチを戻す



- ①A<sub>-1</sub>とA<sup>#</sup><sub>-1</sub>とB<sub>-1</sub>(最低音域の白鍵2つと黒鍵)を押したままで
- ②C<sub>3</sub>~B<sub>3</sub>のいずれかの鍵盤を1回押します。



# 同時発音数の切り替え

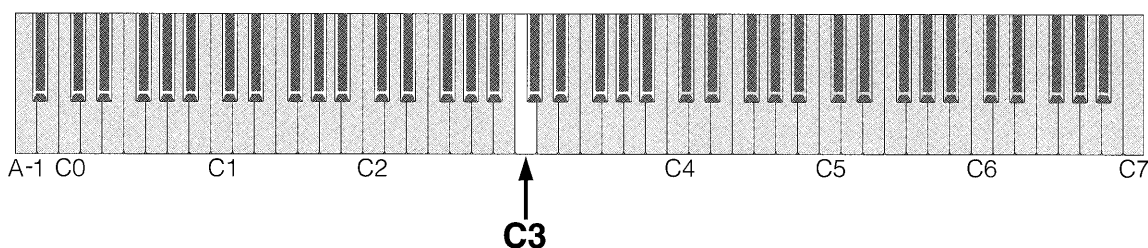
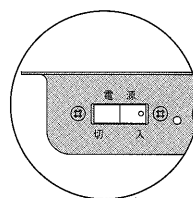
●本製品の同時発音数は、通常ステレオサンプリング32音です。連弾やペダリングを多用する曲を演奏するなど、同時に33音以上を必要とする場合は、同時発音数をステレオ64音に切り替えることができます。

## 操作 ステレオサンプリング32音→ステレオ64音の切り替え

- 電源が入っている場合は、いったん電源を切ります。
- C3を押したままで、電源を入れます。同時発音数がステレオ64音になります。

**ご注意** ●同時発音数の設定(ステレオ64音)は電源を切るとステレオサンプリング32音に戻ります。

同時発音数をステレオ64音に切り替える  
…C3を押しながら電源を入れる



## AUX (補助) 端子の活用

●本製品の背面にあるAUX端子を使って、オーディオ機器や電子楽器と接続できます。

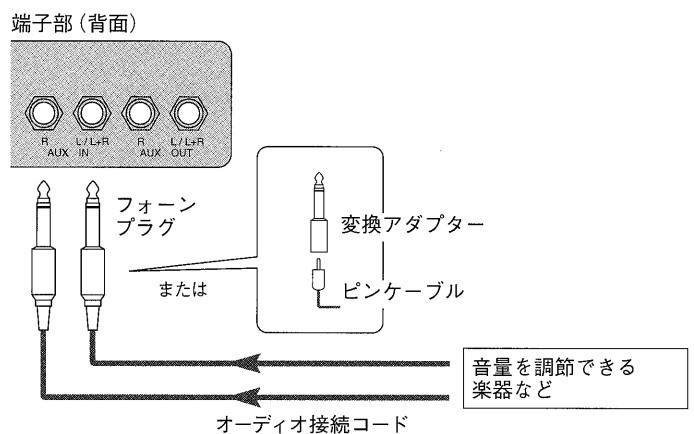
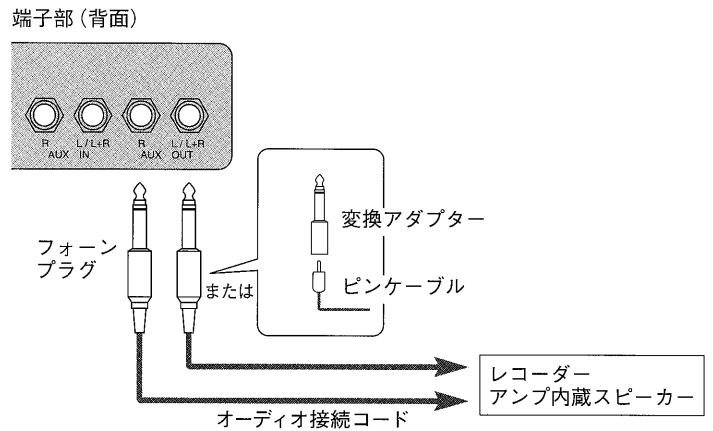
## AUX OUT (補助出力) 端子の活用例

- レコーダー (MD、カセットテープ) に本製品の演奏を録音できます。
- アンプ内蔵スピーカーからも本製品の演奏を出力できます。

## AUX IN (補助入力) 端子の使用例

●他の楽器の演奏音などを、本製品のスピーカーで鳴らすことができます。

- ご注意**
- 接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。
  - 本製品のAUX端子はフォーンジャックです。接続に用いるケーブル (コード) は、一端がフォーンプラグ、もう一端が接続機器の入出力端子 (LINE IN、LINE OUTなど) に合うもの (または変換アダプター) をご用意ください。
  - モノ入力、モノ出力には、AUX IN (L/L+R)、AUX OUT (L/L+R) をお使いください。
  - 接続ケーブルや変換アダプターは「抵抗のないもの」をお使いください。
  - AUX入力端子より入力された音は、本製品では音量調節できません。接続機器のボリュームで調節してください。



## MIDI端子の活用

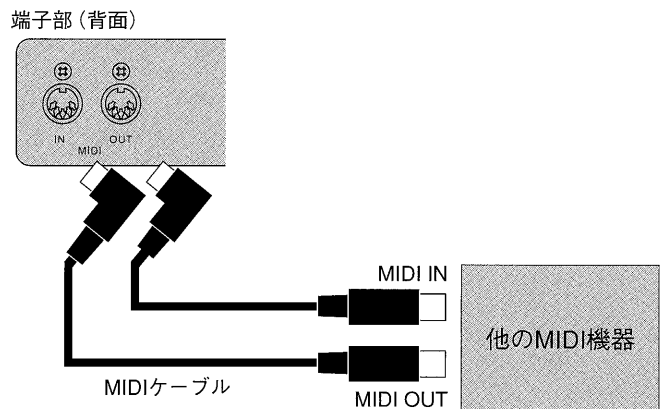
●本製品の背面にあるMIDI端子を使って、他のMIDI機器と接続できます。

## MIDI OUT 端子の活用例

- 本製品の演奏を、音源を持つ他のMIDI機器の音色で鳴らすことができます。
- 本製品の演奏情報を、MIDIシーケンサーなどに記録できます。

## MIDI IN 端子の活用例

- 他のMIDI楽器の演奏を、本製品のピアノ音色で鳴らすことができます。
- MIDIシーケンサーなどに記録されている演奏情報を、本製品のピアノ音色で再生することができます。



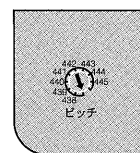
- ご参考**
- MIDI (ミディ) は、デジタル楽器・機器やコンピュータとのシステムアップを可能にする世界共通の規格です。

## MIDI受信チャンネルの切り替え

●本製品のMIDI受信チャンネルは1に設定されていますが、ピッチ切り替えスイッチを438ヘルツより更に1目盛り下にセットすると、「チャンネル1+2」で受信可能になります。「右手パートがチャンネル1、左手パートがチャンネル2」に記録されている曲の再生時などに設定します。

- ご注意**
- MIDIの受信チャンネルを1+2に設定すると、ピッチは440ヘルツに固定されます。ただし、鍵盤による微調整 (9ページ参照) は可能です。

ピッチ切り替えスイッチ  
(スイッチボックス右側面)



スイッチを回すには、お手持ちのマイナスドライバーをお使いください。

# 試聴曲の再生

●本製品は試聴曲を8曲内蔵しています。

## 操作 試聴曲再生の手順(全曲リピート)

① B6とC7の鍵盤(最高音部、右端の白鍵2つ)を一緒に押したままで、電源を入れます。

電源を入れて約3秒後に「カチッ」という音が聞こえたら、すぐに鍵盤から指を離します。

全曲リピートになり、1曲目から8曲目まで繰り返し再生されます。

## 操作 試聴曲再生の手順(1曲再生と停止)

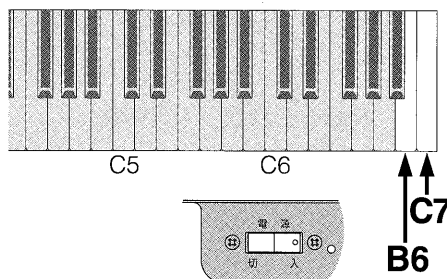
② 1曲だけ再生させたいときは、①の操作後、E6～B6のいずれかの鍵盤を押します。押した鍵盤の曲が再生され、終わると停止します。

再度全曲リピートさせるときは、C7を押します。また、E6よりも左側の鍵盤を押すと、再生が停止します。

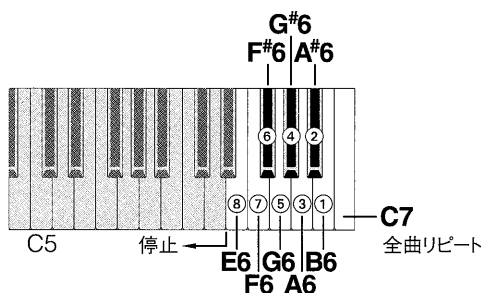
③ 試聴曲の再生を終了するとき、電源を入れ直してください。

● 試聴曲の再生が終わっても、電源を切るまでは、E6から右の鍵盤を押すともう一度再生が始まります。

最高音部の2つの白鍵を押しながら電源を入れる



1曲再生、全曲リピート、停止の操作に使う鍵盤



## ■試聴曲一覧表

曲順	鍵盤	曲名	作曲者
①	B6	スケルツォ第2番	ショパン
②	A#6	I Hear A Rhapsody	George Frajos, Jack Baker, Dick Gasparre
③	A6	前奏曲集第1巻より「亜麻色の髪の乙女」	ドビュッシー
④	G#6	Somewhere Out There	Cynthia Weil, James Horner, Barry Mann
⑤	G6	ピアノソナタ第12番第3楽章	モーツァルト
⑥	F#6	When I Fall In Love	Albert Selden
⑦	F6	夜想曲(ノクターン)第5番	ショパン
⑧	E6	Easy Winners	Scott Joplin

# おかしいと思ったら

●おかしいと思ったらときは、まずこの表にそってお調べください。

現象	原因	解決法
本製品の電源が入らない	電源プラグがコンセントに差し込まれていない	家庭用(AC100V)コンセントに確実に差し込んでください→7ページ
	電源プラグが本製品側に差し込まれていない	本製品背面のACインレット端子に確実に差し込んでください→7ページ
	電源スイッチが切れている	電源スイッチの“入”側を押して電源を入れてください→7ページ
電源スイッチを入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする		電気が流れたためです。ご心配いりません
まったく音が出ない	音量ツマミが最小になっている	音量ツマミを右に回して音量を上げてください→7ページ
	ヘッドフォンを接続している	ヘッドフォンのプラグを抜くか、ヘッドフォンで聴いてください→7ページ
演奏時に「カタカタ」と音がする	鍵盤をたたく音です	故障ではありません
連打時に演奏と異なる強音が発音する	通常のアップライトピアノでは出来ない鍵盤(アクション)の動きによる	電子型アップライトピアノの構造上発生する場合があります、故障ではありません
リバーブがかからない	リバーブ深さツマミが左一杯の状態になっている	リバーブ深さツマミを右に回して適度な深さに設定してください→8ページ
音が残りすぎる(残響がかかりすぎる)	リバーブ深さツマミの設定が深すぎる	リバーブ深さツマミを左に回して適度な深さに設定してください→8ページ
他の楽器とピッチが合わない	ピッチ切り替えスイッチが他のピッチ位置になっている	ピッチ切り替えスイッチのピッチ位置を他の楽器のピッチに合わせてください→9ページ
	本製品で変更できるピッチの範囲を越えている	他の楽器側でピッチを変えてください→9ページ
AUX端子を使って接続したが、両機器間の音量のバランスがとれない	片方の機器のボリューム(音量ツマミ等)だけで、音量を調整しようとしている	両機器のボリューム(音量ツマミなど)を操作して、音量バランスをとってください
AUX INにマイクを接続したが、音量が小さい	AUX INは、マイクを直接つなぐには適していない	マイクアンプやマイク入力を持つミキサーで増幅してから入力してください
AUX OUTからレコーダーに接続して録音したが、音が小さ過ぎる	音量ツマミを絞るとAUX OUTの出力レベルも小さくなる	音量ツマミを右に回してAUX OUTの出力レベルを上げます
	「抵抗入り」のケーブルで接続した	「抵抗無し」のケーブルを使用します
他のMIDI機器と情報をやりとりできない	MIDIケーブルの接続が不完全	両機器のMIDI OUTとMIDI IN端子間をMIDIケーブルで確実に接続してください→11ページ
	本製品のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルと合っていない	他の機器のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルをチャンネル1(またはチャンネル1+2)にしてください→11ページ

# DUP-7 MIDIインプリメンテーションチャート

YAMAHA 電子型アップライトピアノ MIDIインプリメンテーションチャート  
Model: DUP-7

Date: 1-Jan.-2001  
Version: 1.00

ファンクション...	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1 ×	1, 1+2 1, 1+2	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	3 × *****	3 3 ×	
ノート ナンバー: 音域	21-108 *****	21-108 21-108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH, v=1-127 ○	○ v=1-127 ○	
アフター タッチ キー毎 チャンネル別	○ ×	○ ×	*1
ピッチ・ベンド	×	×	
コントロール チェンジ 7 10 11 64 66 67	× × × ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	ボリューム パン エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフト(シフト)ペダル
プログラム チェンジ: 設定可能範囲	× *****	×	
エクスクルーシブ	×	×	
コモン : ソングポジション : ソングセレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアル : クロック タイム : コマンド	× ×	× ×	
その他 : オール・サウンド・オフ : リセット・オール・コントローラ : ローカルON/OFF : オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : リセット	× × × × ○ ×	○ (120,126,127) × ○ ○ (123-125) ○ ×	
Notes *1=打鍵後のキーを押さえ込む圧力で連続的に「キー毎のアフタータッチ」を出力するのではなく、各鍵盤の位置等を独自の付加情報として送信・受信する。			

モード1:オムニ・オン、ポリ  
モード3:オムニ・オフ、ポリ

モード2:オムニ・オン、モノ  
モード4:オムニ・オフ、モノ

○:あり  
×:なし

# 仕様、お手入れ、音のエチケット、お引越し

## 主な仕様

鍵盤	88鍵(A-1～C7・7オクターブ1/4)
アクション	アップライトピアノアクション方式
ペダル	ソフトペダル、ソステヌートペダル、ダンパーペダル
音源方式	AWM2音源
最大同時発音数	ステレオサンプリング32音(ステレオ64音)
音色	ピアノ
コントロール	電源スイッチ(ランプ付き)、音量ツマミ、リバーブタイプ切り替え(ルーム、ホール1、ホール2)、リバーブ深さツマミ、ピッチ切り替えスイッチ、ピッチコントロール、ダンパーの共鳴効果
試聴曲	8曲
接続端子	ヘッドフォン端子(標準ジャック)×2、 AUX IN(R、L/L+R：標準ジャック)：入力インピーダンス10kΩ、 AUX OUT(R、L/L+R：標準ジャック)：出力インピーダンス600Ω、 MIDI IN、MIDI OUT、ACインレット端子
アンプ	30W+30W
スピーカー	ウーハー：16cmバツフル板型×2、ツイーター：2.5cmドーム型×2
定格電源、消費電力	AC100V・50/60Hz、50W
外装仕上げ	マホガニー木目調仕上げ
寸法、重量	高さ102×間口149×奥行50cm、97kg
付属品	高低自在椅子、AC電源コード、取扱説明書、保証書

\*仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

## お手入れ

- 表面に付いたホコリはピアノ用の羽毛で払うか、または柔らかい布で軽く拭き取ります。汚れは、柔らかい布に水をしみ込ませ固くしぼって拭き取った後、乾いた布で乾拭きします。
- 汚れた手で弾かない習慣をつけましょう。
- 鍵盤の汚れが目立つときは、ヤマハピアノキークリーナー(別売)のご使用をお勧めします。
- 強く拭いたり拭きすぎると、塗装に悪く影響を与えることがありますので、ご注意ください。
- 外装のお手入れにピアノユニコンは使用しないでください。
- 外装の汚れが目立つときは、中性洗剤を布にしみ込ませて汚れを拭き取った後、水をしみ込ませ固くしぼった布、乾いた布の順に、中性洗剤をしっかりと拭き取ります。

## 音のエチケット

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓をしめたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

## お引越しのときには

必ず専門業者またはヤマハ特約楽器店にご相談ください。

# 保証とアフターサービス

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1ヶ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

## ●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

## ●保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客様に、保証規定にのっとりご購入の日から向こう1ヶ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと、保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種別の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

## ●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは弊社にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを、責任をもって行うよう手続きいたします。

## ●保証期間経過後のサービス

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハサービス網までお問い合わせください。なお、補修用性能部品の保有期間は、最低8年となっています。

## 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品など

## 本機についてのお問い合わせは、最寄りのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ

### ◇ピアノの機能や取り扱いについてのお問い合わせ

最寄りの特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

#### お客様コミュニケーションセンター ピアノ相談窓口

ナビダイヤル 0570-003-808

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号へおかけください。

TEL 053-460-4835

営業時間 月～金 10:00～18:00／土 10:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

<http://www.yamaha.co.jp/support/>

### ◇ピアノの修理についてのお問い合わせ

お買い上げ店、または下記ヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

#### ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル 0570-012-808

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号へおかけください。

TEL 053-460-4830

営業時間 月～金 9:00～18:00／土 9:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

### ◇その他、本機全般についてのお問い合わせ

#### ヤマハ株式会社 国内営業本部 ピアノ企画部 企画グループ

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL 03-5448-5442

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。